

- 53 才能 終に蹇剥せんぼく
 54 富貴 本 迤邐ちい
 55 傅が築は巖邊がんべんに稠くわうし
 56 范が舟は湖上に扁へんなり

口語訳

- 49 時折、たまらなくやりきれなくなることもあるが、
 50 なんとか心身を落ちつかせ安らごうとしている。
 51 同病相憐れもうと思つて同じような悩みを持った友を（古典籍に）求める。
 52 憂い（左遷され、流されてきた苦しみ）を（少しでも）軽くしたいと思つて、そういう目にあつた先人のあとを尋ねる。
 53 才能などは（かえつて）時運に不利であり結局何の役にも立たない。
 54 富貴の身とかいうものは、元來行き悩んで困難にあうものだ。
 55 傅ふの野で傅説ふえつは罪人に交じつて土木工事に従事していた（不遇の時代があつたし）、
 56 范はんは扁舟へんれい（小舟）に乗つて五湖から揚子江に浮かんで去り行方をくらし（わが身の保身をはかつた）